



Title	加藤正治教授略歴および研究業績一覧
Author(s)	
Citation	大阪大学英米研究. 2020, 44, p. 3-7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99440
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



加藤正治教授

加藤 正治 教授

略歴および研究業績一覧

【略歴】

- 昭和52年 3 月 大阪外国語大学外国語学部英語学科卒業
- 昭和52年 4 月 名古屋大学大学院文学研究科博士前期課程（英文学専攻）入学
- 昭和54年 3 月 同課程修了
- 昭和54年 4 月 名古屋大学文学部助手
- 昭和56年 3 月 同学退職
- 昭和56年 4 月 甲南女子大学短期大学部英語学科助手
- 昭和57年 4 月 同学専任講師
- 昭和58年 4 月 大阪外国語大学外国語学部英語学科専任講師
- 昭和61年 9 月 ハーバード大学（米国）客員研究員（昭和 62 年 8 月まで）
- 昭和63年 1 月 大阪外国語大学外国語学部英語学科助教授
- 平成 4 年 4 月 同学大学院外国語学研究科担当
- 平成 8 年 9 月 マギル大学（カナダ）客員研究員（平成 9 年 8 月まで）
- 平成 9 年 4 月 大阪外国語大学大学院言語社会研究科担当
- 平成12年 1 月 大阪外国語大学外国語学部地域文化学科北米地域文化専攻教授
- 平成19年10月 大阪大学大学院文学研究科文化動態論専攻言語生態論講座教授
- 令和 2 年 3 月 定年退職

【研究業績等一覧】

学術論文

1. “An Inquiry into Ambiguities of English Noun Phrases: On Referentiality, Opacity and Specificity” (単著: 修士論文) 昭和 54 年 4 月.
2. 「左方転位と話題化の派生に関する一試案」(単著). 『名古屋大学文学部論集』 LXXVIII: pp.157-173. 昭和 55 年 3 月.
3. “A Survey of Ambiguities in Noun Phrases” (単著). *Linguistics and Philology* No.1 (荒竹出版). pp.148-164. 昭和 55 年 10 月.
4. 付帯状況を表わす句についての一試案 (単著). 『名古屋大学文学部論集』 LXXIX: pp.97-110. 昭和 56 年 3 月.
5. “On Imperative Sentences: A Historical Study Based on Data from a Selection of Literary Works from England (1650-1900)” (単著). 『英文学研究』(日本英文学会) 第 59 巻第 1 号: pp.99-119. 昭和 57 年 9 月.
6. “A Study of Gerundive Nominals in Shakespeare’s Works” (単著). 中野弘三ほか編『言語変化: 荒木一雄博士還暦記念論文集』(研究社出版) pp.196-208. 昭和 57 年 10 月.
7. 「『カンタベリー物語』における ING 形の分析」(単著). 『英米研究』(大阪外国語大学英語研究室) 第 14 号: pp.29-45. 昭和 60 年 3 月.
8. “On the Structure of Gerunds in Modern English” (単著). *Linguistics and Philology* (英宝社) No.6: pp.148-166. 昭和 61 年 2 月.
9. 「Gerund の史的解説」(単著). 『英米研究』(大阪外国語大学英語研究室) 第 15 号: pp.35-44. 昭和 62 年 2 月.
10. 「近代英語の命令文の派生について」(単著). 『英米研究』(大阪外国語大学英語研究室) 第 17 号: pp.85-100. 平成 2 年 3 月.
11. 「V 移動と近代英語の命令文」(単著). 有馬道子ほか編『言葉の構造と歴史: 荒木一雄博士古稀記念論文集』(英潮社) pp.273-285. 平成 3 年

12 月.

12. 「英語の否定文の変遷について」(単著). 『英語圏世界の総合的研究』(大阪外国語大学) pp.13-22. 平成 5 年 3 月.
13. 「16 世紀及び 17 世紀の英訳聖書の『マタイ伝』にみられる倒置と *There* 構文」(単著). 『近代英語の諸相：近代英語協会 10 周年記念論集』(英潮社) pp.248-263. 平成 5 年 5 月.
14. 「NegP と英語否定文の変遷」(単著). 『近代英語研究』(近代英語協会) 第 10 号：pp.65-73. 平成 6 年 6 月.
15. 「否定命令文の変遷に関する一試案：研究ノート」(単著). 『言語の深層を探ねて：中野弘三博士還暦記念論文集』(英潮社) pp.452-466. 平成 8 年 10 月.
16. 「『欽定訳聖書』に見られる動詞第二位現象について」(単著). 『待兼山論叢』(大阪大学文学会) 第 43 号文化動態論編：pp.1-8. 平成 21 年 12 月.
17. 「『カンタベリー物語』にみられる否定辞 *ne* について：研究ノート」(単著) 『英米研究』(大阪大学英米学会) 第 36 号：pp.33-53. 平成 24 年 3 月.
18. 「vP-raising について：Biberauer & Roberts (2005/2006) に対する短評」(単著) 『英米研究』(大阪大学英米学会) 第 38 号：pp.21-30. 平成 26 年 3 月.
19. 「*Beowulf* にみられる否定辞 *ne* について」(単著). 『言葉のしんそう(深層・真相)：大庭幸男教授退職記念論文集』(英宝社) pp.193-202. 平成 27 年 3 月.
20. 「If=Though である可能性」(単著). 『待兼山論叢』(大阪大学文学会) 第 49 号文化動態論編：pp.1-8. 平成 27 年 12 月.
21. 「“*There* + Modal + Subj + V” の構文について」(単著). 『ことばを編む：登田龍彦先生退職記念論文集』(開拓社) pp.82-89. 平成 30 年 2 月.

22. 「Witkoś (2004) において提案されている *there* 構文の分析について」(単著)『英米研究』(大阪大学英米学会)第42号: pp.63-71. 平成30年3月.
23. 「Moulton (2004) “External arguments and gerunds” に対する短評」(単著). 『待兼山論叢』(大阪大学文学会)第53号文化動態論編. 令和2年3月(予定).

翻訳

1. 『複合名詞の形態と意味』(ジュデイス・リヴィ著; 杉浦茂夫氏と共訳). こびあん書房. 昭和58年7月.
2. 『5分間で言語学: 一口サイズのことばへの誘い』(リッカーソン&ヒルトン編; 上田功・大津智彦・早瀬尚子氏と共訳). ひつじ書房. 令和2年刊行予定.

研究発表・講演

1. 「シェイクスピアの作品における Gerund について」(単著). 名古屋大学英文学会. 昭和55年6月.
2. 「英語の命令文－後期近代英語の資料に基づく分析」(単著). 甲南女子大学英文学会研究発表会. 昭和57年1月.
3. 「動名詞の構造について」(単著). 近代英語協会第2回大会. 昭和60年5月.
4. 「否定命令文の変遷に関する一考察」(単著). 近代英語協会第13回大会シンポジウム. 平成8年5月.
5. 「空範疇と虚辞の *it*」(単著). 日本英語学会第8回大会ワークショップ. 平成12年11月.
6. 「古い時代の英語の文字について: 古英語を中心に」サイエンスカフェ(大阪大学). 平成24年8月4日.

辞書

1. 『英語正誤辞典』（荒木一雄編；共著），研究社出版，昭和 61 年 7 月。
2. 『デイリーコンサイス和英辞典（第 4 版）』（荒木一雄編；共著），三省堂書店，平成 2 年 2 月。
3. 『現代英文法辞典』（荒木一雄、安井 稔編；共著），三省堂書店，平成 4 年 2 月。
4. 『現代英語正誤辞典』（荒木一雄編；共著），研究社出版，平成 8 年 12 月。
5. 『英語学用語辞典』（荒木一雄編；共著），三省堂書店，平成 11 年 1 月。
6. 『ワードパル和英辞典』（荒木一雄、天野政千代編；共著），小学館，平成 13 年 1 月。

書評

1. “Tony Bex & Richard J. Watts (eds.) : *Standard English : The Widening Debate*” (単著). 『近代英語研究』(近代英語協会) 第 18 号 : pp.123-128. 平成 14 年 5 月。
2. “Olga Fischer, Ans van Kemenade, Willem Koopman & Wim van der Wurff (eds.) : *The Syntax of Early English*” (単著). *IVY* (名古屋大学英文学会) Vol.35 : pp.135-140. 平成 14 年 10 月。
3. 「句構造規則の集大成 Ray Jackendoff, *\bar{X} Syntax : A Study of Phrase Structure*. Cambridge, Mass. : The MIT Press, 1977. xii + 249 pp. (単著). 『英文学研究 支部統合号』(日本英文学会) Vol. IX : pp.217-220. 平成 29 年 1 月。